

三つの危険なサイン ——すぐに救急車を!

のうこうそく 脳梗塞

突然——箸がもてなくなった。あるいは、ろれつが回らない。片側の口が垂れている……。

これらは、脳梗塞の発症を知らせる重要なサインとなっています。

脳梗塞は、死亡につながるだけでなく、重い後遺症が残る可能性のある病気です。サインをキャッチしたら、すぐに救急車を呼ぶようにしてください。

三種類の脳梗塞

脳梗塞は、脳の血管がふさがることによって発症します。血管がふさがると、脳細胞に血液が届かない、あるいは届きにくくなり、やがては脳細胞の壊死へと繋がっていきます。そして、脳細胞に障害が起きた部位によって、全身にさまざまな症状を引き起こします。

脳梗塞は、おもに次の3つのタイプに分けられます。

①ラクナ梗塞Ⅱ脳の深い部分の細かい血管がふさがるタイプ。日本人では最も多い。

②アテローム血栓性脳梗塞Ⅱ脳の太い血管がふさがるタイプ。血管内部にコレステロールの固まりができ、そこに血小板が集まることで血管が詰まる。

③心原性脳梗塞Ⅱ心臓にできた血液の固まりが剥がれ、血液によって脳へ運ばれて血管をふさぐタイプ。

脳梗塞の原因

①と②の脳梗塞を引き起こす原因

因は動脈硬化、③は心臓の病気が脳梗塞の原因となっています。

①②③に共通することは、生活習慣病（高血圧・糖尿病・脂質異常症）が関連し、また悪化要因ともなっている点です。

さらに③のタイプでは、特に心臓の不整脈に注意が必要です。不整脈は、脈が速い（あるいは遅い）、不規則、飛ぶといった脈の打ち方に異常が現われることです。脈に異常があると、心臓のなかに血液の固まりが生じやすくなり、脳梗塞のリスクが高くなります。



脳梗塞は時間との闘い

脳梗塞を発症したときは、「治療開始までの時間」が非常に重要となります。

脳梗塞による脳細胞の壊死は、時間とともに進んでいきます。そして、脳細胞の壊死が進むほど、重い障害が残る危険性は高くなります。早く治療を行えば、こうしたリスクの軽減につながります。

また脳梗塞の治療に効果的とされる、血液の固まりを薬で溶かす治療法（経静脈血栓溶解療法）や、カテーテルで血管内の血の固まりを取り除く治療法（血栓回収療法）には、発症から治療開始までの時間に制約があることも関係しています。

脳梗塞三つのサイン
!!必ず覚えてください!!

治療開始までの時間を短縮するには、まず、脳梗塞発症時の代表的な症状を知っておく必要があります。脳梗塞のサインとなる症状は、次の三つです。

「身体の片側（腕や脚）の麻痺」

「顔のゆがみ」

「言語障害や失語障害」

この三つを必ず覚えて、これらの症状のうちどれか一つでも起きたときは（症状が軽くても）迷わず救急車を呼んでください。

特に注意したいのは、脳梗塞のサインとなる症状が起きたが、時間で元に戻ったというケースです。これは「一過性脳虚血発作」と呼ばれるもので、重篤な脳梗塞を発症する前触れかもしれない症状です。

一過性脳虚血発作を放置しないで再発予防に取り組めば、脳梗塞のリスクを大きく減らせる可能性があります。脳梗塞のサインが数分で消えたとしても、ためらわずに救急車を呼びましょう。



生活ほっとニュース
アミロイドアンギオパチー

脳出血は、脳の動脈が破れて血液が脳に溢れ出す病気で、その原因のほとんどは高血圧による血管の損傷です。脳出血を起こす動脈の太さは0.2〜0.3mmととても細く、高血圧の影響を受けやすくなっています。

かつては国民病とまで呼ばれた脳出血ですが、現在、その死亡者数は減少傾向にあります。その理由としては、以前よりは塩分控えめの食生活に変わってきたこと。そして、非常に効果的な降圧薬（血圧を下げる薬）が開発され、高血圧の治療効果が高くなったことなどがあげられています。

一方、全体では減少している

脳出血の死亡者数ですが、80歳を過ぎた人の場合は、逆に増加しているというデータもあります。そこには、「アミロイドアンギオパチー」という、聞きなれない病気が関係しています。アミロイドアンギオパチーは、アミロイド（水に溶けない繊維状のたんぱく質）が血管に溜まって起こる血管障害です。高齢者に特有の病気で、高血圧でなくても脳出血を起こすという特徴があります。この病気の原因はわかっておらず、このため予防法や治療薬がありません。ただ、アミロイドアンギオパチーのようなケースでも、高血圧による血管の損傷があるのではないのでは、脳出血発症のリスクに差がでます。やはり日頃から、脳出血予防には高血圧対策をしっかり行なっていくことが大切です。

